



本資料は、サノフィ(フランス、パリ)とベーリンガーインゲルハイム(ドイツ、インゲルハイム)が 2016 年 6 月 27 日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・編集し、本日配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。日本語で承認されている主な製品名および一般名についてはカタカナ表記をしています。

サノフィとベーリンガーインゲルハイム、 コンシューマーヘルスケアと動物用医薬品の事業交換に合意

- 両社、医薬品業界の 2 領域でグローバルリーダーに¹ -

2016 年 6 月 27 日 パリ(フランス)、インゲルハイム(ドイツ) サノフィとベーリンガーインゲルハイム は本日、2015 年 12 月から交渉を行っていた戦略的な事業交換—サノフィの動物用医薬品事業であるメリアルとベーリンガーインゲルハイムのコンシューマーヘルスケア(CHC)事業の交換—に合意し、契約締結に至ったことを発表しました。これは 2016 年末に予定している事業統合のクロージング前の大きな節目となりますが、その間に各国の全ての関係当局から承認を得ることが条件となります。ベーリンガーインゲルハイムの CHC 事業のサノフィへの統合、ならびにメリアルのベーリンガーインゲルハイムへの統合は、クロージング後に開始されます。

契約締結後にクロージングを迎えることで、この事業交換は医薬品業界にとっても意義深いものとなります。また、両社の歴史にも重要な節目として綴られることとなるでしょう。

ベーリンガーインゲルハイム取締役会会長アンドレアス・バーナー(Prof.)は次のように述べています。「今回の合意はベーリンガーインゲルハイムにとって大きな成功であり、それはサノフィにとっても同様です。そして、これはイノベーションを重んじる当社の一貫した方向性を示すものであり、会社の歴史上の最も重要なステップのひとつとなります。ベーリンガーインゲルハイムは研究開発主導型企業として、動物用医薬品市場でのポジションをいっそう強化し、グローバル市場で最も大きな役割を担う会社のひとつになります。ベーリンガーインゲルハイムとサノフィは、文化的にもまた物事へのアプローチにも共通点が多いことから、それぞれに統合される事業は将来大きく発展するでしょう」

サノフィ最高経営責任者(CEO)のオリヴィエ・ブランディクール(M.D.)は次のように述べています。「当社の 2020 年に向けたロードマップの戦略的目標の 1 つとして、CHC 領域でリーダーとなり、ヒト用ヘルスケア市場でグローバルなリーディングカンパニーになることが明記されていますが、今回の契約締結はその達成に向けたものです。この事業交換により、当社の CHC ビジネスは、非常に認知度の高い製品にて補完されるポートフォリオを有することになり、中長期的に価値を創造し、主要国におけるマーケットポジション強化を実現することができます」

今回の戦略的な事業交換は、今後が期待できる 2 つの医薬品事業領域において両社に売上と規模の拡大をもたらすものです。事業交換が成立すれば、ベーリンガーインゲルハイムの CHC 事業(事業価値 67 億ユーロ相当)がサノフィに、サノフィの動物用医薬品事業であるメ

I. 規制当局の認可に基づく



リアル(事業価値 114 億ユーロ相当)がベーリンガーインゲルハイムに統合されることとなります。また、今回の事業交換では 2 つの事業価値の差に応じ、サノフィに 47 億ユーロが支払われる予定です。サノフィは、事業交換によって得られる資金の一部を株式の買戻しに充てる予定です。CHC 事業の実績予測、自己株取得、相乗効果の可能性を考慮すると、この事業交換による 1 株当たりの利益は、2017 年は変化なく、その後数年間で徐々に増加するものと見込まれます。

メリアルとベーリンガーインゲルハイムの製品ポートフォリオは高い相互補完性があり、また両社の駆虫剤、動物用ワクチン、動物用医薬品の技術基盤も統合することで、動物用医薬品市場の主要な成長セグメントにおいて高い競争優位性が発揮でき、グローバル規模で顧客に今まで以上の価値とイノベーションを提供できるものと期待しています。ベーリンガーインゲルハイムの動物用医薬品事業の売上は倍増し、約 38 億ユーロ(2015 年ベース)規模となる見込みです。

今回の事業交換により、サノフィは中国を除くベーリンガーインゲルハイムの全 CHC 事業を統合します。統合後の CHC 事業は約 49 億ユーロ¹(2015 年ベース)規模となります。製品やブランドポートフォリオにおいて高い相互補完性があり、それを獲得することでサノフィは、鎮痛薬、抗アレルギー薬、感冒薬、フェミニンケア、消化器用薬、VMS(ビタミン、ミネラル、サプリメント)などいくつかの戦略的カテゴリーにおけるポジションを強化することができます。

ベーリンガーインゲルハイム取締役会会長就任予定のフベルトウス・フォン・バウムバッハはこう述べています。「今回の事業交換が両社にとって非常に魅力的である背景には、我々の社員がいることを忘れてはなりません。社員のビジネスに対する高いコミットメントと卓越したパフォーマンスがあるからこそ、ベーリンガーインゲルハイムとサノフィは、将来に向けてそれぞれのビジネスを持続可能な成功へと導いていくことになると確信しています」

当初の予定通り、6 ヶ月間にわたり建設的にまた成功裏に交渉は進められ、今回の契約締結に至りました。両社が事業交換の詳細について議論した事項には、事業交換の範囲設定、関連規制の遵守などが含まれています。また、ベーリンガーインゲルハイムとサノフィは、事業交換の実現に向け、フランスおよびドイツの関連団体や規制当局とも様々な討議を続け、助言を受けながら今回の交渉を進めてきました。交渉開始時のコミットメントに基づき両社は、フランス・リヨンの R&D 及び生産施設ならびにフランス・トゥールーズの生産工場を含め、リヨンとトゥールーズをベーリンガーインゲルハイムの動物用医薬品事業の中心地とすることで合意しています。また、メリアルの事業において米国市場が非常に重要であるため、ベーリンガーインゲルハイムは米国の現状に細心の注意を払っていきます。一方、サノフィの CHC ビジネスにおいては、特に胃腸薬や感冒薬の領域を踏まえ、現在のベーリンガーインゲルハイムの組織の機能を最大限に生かしていくため、ドイツをその中心地に据える予定です。

II. ベネズエラを除く



ベーリンガーインゲルハイムの CHC 事業

ベーリンガーインゲルハイムの CHC 事業はグローバル CHC 市場で 8 位のポジションにあります。2015 年度の売上高は 15 億 1,000 万ユーロで、同社の全売上高の 10%を占めます。ベーリンガーインゲルハイムはお客様にとって魅力的な真のグローバル製品の効率的な開発を進めるため、先進的で持続的な研究開発手法を採求し続けています。

CHC 事業の主力製品には鎮痙剤 Buscopan® (ブスコパン、2015 年度売上高 2 億 2,300 万ユーロ:主に欧州・新興市場で販売)、緩下剤 Dulcolax® (同 2 億 2,500 万ユーロ:主力市場の米国の他 40 カ国以上で販売)、総合ビタミン剤 Pharmaton® (同 1 億 4,000 万ユーロ:主に新興市場で販売)、去痰剤 Mucosolvan® (ムコソルバン、同 1 億 6,800 万ユーロ:主にドイツ、ロシアで販売)及び Bisolvon® (ビソルボン、同 9,600 万ユーロ:主要市場のスペイン、イタリアの他世界で広く販売)、咽喉痛薬 Mucoangin®/Lysopaine® (同 5,400 万ユーロ)などがあります。

サノフィの CHC 事業

2015 年度の売上高は 34 億ユーロでした。主力ブランドには、抗アレルギー薬 Allegra® (アレグラ、2015 年度売上高:4 億 2,400 万ユーロ)と Nasacort® (同:1 億 2,200 万ユーロ)、鎮痛薬 Doliprane® (同:3 億 300 万ユーロ)、No-Spa® (同:8,800 万ユーロ)および Dorflex® (同:8,100 万ユーロ)、消化器用薬 Essentiale® (同:1 億 9,600 万ユーロ)、Enterogermina® (同:1 億 6,100 万ユーロ)、Maalox® (同:9,700 万ユーロ)、フェミニンゾーン洗浄剤 Lactacyd® (ラクタシード、同:1 億 1,400 万ユーロ)、ビタミン・ミネラル含有サプリメント Magné B6® (同:1 億 300 万ユーロ)などがあります。2015 年度における CHC 事業の売上の 48.1%は新興市場、26.2%が米国、18.6%が西欧で得られました。

メリアルについて

メリアルは、疾病予防と健康と福祉の向上を目的とし、様々な製品を提供している、研究・開発主導型の動物用医薬品分野における世界のリーダー企業です。メリアルは、コンパニオンアニマル、産業動物、獣医公衆衛生の3分野を柱に事業を展開し、提供する製品は様々な動物における200種類以上の疾病・症状に対応しています。世界中でおよそ6,900名のスタッフが従事し、その製品は150カ国以上で販売され、2015年度の年間販売高は25億ユーロを超えます。メリアルはサノフィグループの会社です。詳細については、www.merial.com、[@Merial](https://twitter.com/Merial) をご覧ください。

メリアルの主力製品は、コンパニオンアニマル用のFrontline®(フロントライン)、Heartgard®(ハートガード)、NexGard®(ネクスガード)、Broadline®(ブロードライン)およびPurevax®(ピュアバックス)、産業動物用のVaxxitek®、Eprinex®(エプリネックス)、Ivomec®(アイボメック)、Longrange®、Circovac®(サーコバックス)およびGastroGard®(ガストロガード)等です。革新性と専門性の高い製品をお届けするために、メリアルは世界各地に13の研究開発拠点と15の生産拠点を有しています。

ベーリンガーインゲルハイムの動物用医薬品事業

ベーリンガーインゲルハイムの動物用医薬品事業はグローバルの動物用医薬品市場で 6 位のポジションにあり、動物の疾病を予防・治療・療養するために革新的なソリューションを提供し続けています。世界に 3,800 人の社員を擁するベーリンガーインゲルハイム動物用医薬品事業の 2015 年度の売上高は 13 億 6,000 万ユーロで、同社の全売上高の 9%を占めます。

主要製品には Ingelvac Circoflex® (インゲルハック®サーコフレックス、2015 年度売上高:2 億 8,100 万ユーロ)、Metacam® (メタカム®, 同:1 億 100 万ユーロ)、Ingelvac® PRRS (インゲルバックス®PRRS、同:9,900 万ユーロ)、Duramune® (同:8,800 万ユーロ)などがあります。



ベーリンガーインゲルハイムの動物用医薬品事業は世界の豚ワクチン市場のリーダーであり、動物用医薬品の専門分野に加えて、コンパニオンアニマル、牛ワクチンでも魅力的なポジションを築いています。動物用医薬品の研究開発活動は米国、ドイツ、中国、メキシコ、日本で行われています。研究開発型動物用医薬品事業を進めるベーリンガーインゲルハイムは、動物用医薬品事業売上高の約 12%を研究開発に投資し続けています。

サノフィについて

サノフィは、グローバルヘルスケアリーダーとして、患者さんのニーズにフォーカスした医療ソリューションの創出・研究開発・販売を行っています。5つのグローバルビジネスユニット(糖尿病と循環器領域、ジェネラルメディスンと新興市場、サノフィジェンザイム、サノフィパストゥール、メリアル)で組織され、パリ(EURONEXT: [SAN](#))およびニューヨーク(NYSE: [SNY](#))に上場しています。

ベーリンガーインゲルハイムについて

ベーリンガーインゲルハイムは、世界でトップ 20 の製薬企業の 1 つです。ドイツのインゲルハイムを本拠とし、世界で 145 の関連会社と 47,500 人以上の社員が、事業を展開しています。1885 年の設立以来、株式公開をしない企業形態の特色を生かしながら、臨床的価値の高いヒト用医薬品および動物用医薬品の研究開発、製造、販売に注力してきました。

ベーリンガーインゲルハイムにとって、社会的責任は企業文化の重要な柱であり、その中にはグローバル規模のイニシアチブ「**Making More Health**(人々のより良い健康の実現を目指して)」などの社会的なプロジェクトへの関与や、社員への思いやりの精神などがあります。また、お互いに配慮し、平等な機会を提供し、業務やキャリアと家族生活との調和を重んじることは、相互協力の基盤となるものです。また、環境保護と持続可能な社会の実現に向けて注力しています。2015 年度は 148 億ユーロ(約 1 兆 9,873 億円)の売上高を達成しました。革新的な医薬品を世に送り出すべく、売上の 20.3%相当額を研究開発に投資しました。

詳細については、<http://www.boehringer-ingelheim.jp/>をご覧ください。

サノフィの今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述です。これらの記述には、計画と予測ならびにそれらの根拠となる前提、将来の財務結果、事象、事業、サービス、製品の開発および可能性に関する計画、目標、意向および期待に関する記述、ならびに、将来の実績に関する記述が含まれます。一般的に、今後の見通しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは実質的に異なる場合があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、研究開発、市販後を含む今後の臨床データおよび解析、薬剤・機器・生物学的製剤などの製品候補について提出される申請の承認の是非および時期に関する FDA や EMA などの規制当局の決定、ならびにそのような製品候補の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼすラベリングその他の問題に関する当局の決定に付随する不確実性、製品候補が承認された場合に商業的に成功するという保証の欠如、代替治療薬の将来的な承認および商業的成功とグループが外部成長の機会から利益を得る可能性に付随する不確実性、為替レートと実勢金利のトレンド、コスト削減イニシアチブとその後の変更の影響、期中平均発行済み株式数、ならびにサノフィの 2015年12月3日終了事業年度フォーム20-F年次報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成したSECおよびAMFに対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものが含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。